

第3期中期目標・中期計画における臨床研究総括報告書

診療科(部)名: 看護部

主な臨床研究課題

- (1) 口唇裂・口蓋裂の子どもをもつ両親の治療および育児における不安内容
と育児レジリエンスとの関連
～口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの父親の医療者への期待と実際に受けた支援～
- (2) 口唇裂・口蓋裂児の小学校入学に伴う母親の不安
- (3) 口唇裂・口蓋裂の孫をもつ祖母の心理状態-孫に関連する心理的側面-

上記臨床研究の成果（発表済の論文がある場合はその論文を付記してください）

- (1) 父親は患児に疾患を伝えることの重要性を認識していたが、患児への説明の時期や方法に関して検討できるよう支援していく必要があり、今後さらに、園や学校と医療機関との連携、医療費や身近な人への対応にも目を向けた支援の充実が望まれることが示唆された。
(第47回日本看護学会ヘルスプロモーションにて発表)
- (2) 母親は、他の子どもから容姿の違いを指摘されることや、子ども自身が容姿の違いに気づいたり指摘されたりして心の葛藤がおこることを不安に感じていた。また、顔面の怪我による創の離開や伝わりにくい言語に対する不安を抱いていたため、医療者から体育や音読等の授業に関する注意事項を学校側に伝え、母親の不安の軽減を図る必要があると示唆された。(平成29年度看護科学学会にて発表)
- (3) 口唇裂・口蓋裂児の祖母は、孫の疾患や将来に対するショックや苦悩は児の母親と同じ心理状態であった。また、孫の疾患を障がいと捉え偏見により、ネガティブに捉える一面があった。しかし、正しく疾患を理解することで安心し、孫の疾患に意味づけを行い前向きな受け止めにより受容していた。よって、医療者は、祖母に対して早期から疾患・治療についてのICや診療場面への参加を促すことが重要であることが示唆された。
第43回日本口蓋裂学会 口演発表
日本口蓋裂学会雑誌第44巻第3号 掲載

第4期に向けての計画・展望

今後は、現在、当大学で行っている口唇裂・口蓋裂児の哺乳技術のエビデンスを科学的視点で解明し、哺乳が困難な児への哺乳指導の確率と実践へつなげていきたいと考えている。